

東南村山からおいしさを極める！ おいしい米づくり情報

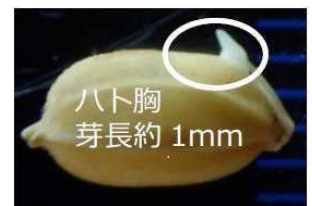
第2号 播種～育苗初期編

発行:令和 6年 4月 9日
山形おいしさ極める!米づくりプロジェクト村山地域本部
村山総合支庁農業技術普及課
(TEL:023-621-8295)

今年は、催芽を始めてから芽切れまでの時間がかかる傾向にあります!

播種準備(種子浸漬・催芽・播種)

- ・浸種の水温は **12℃以上から15℃未満**で行います。
- ・浸種開始の水温が5℃くらいまで低いと、芽切れが悪く、発芽勢が劣ります。
- ・**積算水温 120℃**を目安に浸種を行きましょう。
- ・催芽は30～32℃の適温で行いますが、**昨年**の高温の影響で休眠が深く、**浸種が十分であっても、催芽を始めてから芽切れするまでの時間が例年より長い傾向にあります。**
- ・芽切れしないまま播種すると、出芽揃いが悪くなりますので、**必ず、種籾の9割がハト胸状態になっていることを確認してから**播種作業に入りましょう！
- ・老化苗は活着不良の原因になるため、**移植日から逆算して**計画的に作業を進めましょう。



苗種	播種量(乾籾)	浸漬	催芽	播種	移植	育苗日数	必要箱数
稚苗	150～180 g (催芽籾185～225 g)	4月14日	4月24日	4月25日	5/15～ 5/20	20～25日 ※加温出芽	25箱/10 a
中苗	80～120 g (催芽籾100～150 g)	4月9日	4月19日	4月20日		30～35日 ※加温出芽	30箱/10 a

育苗初期の温度管理・水管理

温度計は育苗ハウス(1.5m)と苗床(地際)に設置しましょう。**こまめに温度を確認!!**

時期	昼間	夜間	管理点
出芽期	30～32℃		無加温出芽では、 覆土から5～10mm出芽したら被覆資材を撤去する。 低温条件の出芽遅れに注意。
緑化期	25℃	15℃	外気温が25℃を超える日は、育苗ハウスを全開にして空気を交換し、熱がこもらないように管理する。
硬化期以降	20～25℃	8℃以上	夜や低温時は保温に努め、霜が予報される場合は、早めに育苗ハウスを閉める。

- ・かん水は早朝に1回が基本です。夕方のかん水は、床土の温度を下げるので避けましょう。
- ・プール育苗では、稲1.5葉期に床土の高さまで入水します(ハウスは開放)。稲2葉期以降の水深は、箱上1cmが目安です。苗が伸びやすくなるため、こまめにハウス温度や水温を管理しましょう。

アルミ蒸散シート使用時の注意点

- ・アルミ蒸散シートは温度の上昇を防ぎ、シート内の温度を一定に保つ効果は高いですが、低温時はシート内の温度が低くなり、出芽までに日数がかかることがあります。
- ・育苗ハウスの準備は**早め(播種の約 1 週間前まで)**に行い、**予め地温を高めておきましょう。**
- ・苗箱を並べた後、**苗床の温度が 20～30℃となるように日光で温めて**から被覆して、シート内の適切な温度を確保しましょう。苗床の温度が 32℃を超えると高温障害の発生リスクが高まるので、**温度計で必ず温度を確認**しましょう。
- ・出芽が揃った後も被覆を続けると、**苗は徒長して軟弱化します。**出芽後は速やかに資材を撤去しましょう。

土づくり資材の施用

- ・近年、土壌やかんがい水から供給されるケイ酸量が減少しています。ケイ酸資材の投入により、**①病害虫の抵抗力向上、②光合成効率の向上、③根の活力維持**が期待されます。積極的に施用しましょう。

【施用の目安】 ケイカル 120kg/10a、 ようりん 30kg/10a 程度

基肥散布

表 分施(基肥+追肥)体系における品種別基肥量の目安

品種名	はえぬき	つや姫	雪若丸	コシヒカリ	あきたこまち	ひとめぼれ
窒素成分 kg/10a	5.0～6.0	3.0～4.0	4.0～5.0	2.5～3.5	4.0～5.0	4.0～5.0

- ・全量基肥(一発)体系は、分施(基肥+穂肥)体系よりも減肥が基本です。
- ・特別栽培(つや姫、雪若丸等)では、生産計画に申請した資材と施肥量を散布しましょう。
- ・「つや姫」は出荷基準を満たすため、地力に応じた肥培管理で復田への作付は避けましょう。
- ・「雪若丸」は初期生育確保が重要です。肥効調節型肥料を使用する場合は、溶出パターンが雪若丸の生育に適したもの(初期重点型等)を使用しましょう。

乾土効果

- ・乾土効果の発現を狙って耕起は早めに行い、作土全体を十分に乾燥させましょう。
耕起後 5 日以上降雨がないと、土壌中の窒素が有効化して初期生育の確保が容易になります。

作土深の確保

- ・近年の圃場は作土深が浅くなりがちです。作土深が浅いと根域が浅くなり、収量や品質が低下しやすくなります。**作土深 15cm** を目標に耕起を行い、**①根域の拡大と根の活力維持、②地力窒素の発現と養分保持・供給力の増強**を狙いましょう。トラクタの馬力に合わせたスピードで耕起を行いましょう。

STOP 農作業事故!!

～春の農作業安全運動展開中(4/10～6/10)～

管内の稲作情報を
LINEに掲載しています!

QRコードを読み込んで、
グループ登録をして下さい。



稲作情報